

## 5 . 水害と治水事業の沿革

### 5-1 既往洪水の概要

表 5-1

水 害 年 月 日	被 害 内 容
明治 31 年 9 月 6 日	(原因) 台風が本道南部を通り東海岸をぬけたため。 (被害内容) 日高支庁管内の沙流・静内・新冠の 3 群に被害、家屋全壊 102 戸、同半壊 19 戸、同流失 61 戸、同浸水 351 戸、田被害 8ha、畑同 2,535ha。平取死者 29 人、門別死者 29 人、佐留太小学校流失。
大正 11 年 8 月 24～25 日	(原因) 本道南東海岸を通った台風による。 (降雨量) 門別 140mm (24 日) (被災内容) 日高支庁管内死者 38 人、負傷者 13 人、家屋流失 228 戸、同浸水 1,136 戸、田浸水 1,043ha、畑同 2,763ha。
昭和 10 年 8 月 29～30 日	(原因) 猛烈に発達した台風 (960mb 以下) が銚子沖から根室付近に達したため。 (降雨量) 浦河 55mm (25～26 日) (被災内容) 日高支庁管内死者 1 人、負傷者 62 人、家屋全壊 140 戸、同半壊 241 戸、同流失 76 戸、床上浸水 155 戸、床下同 152 戸、非住家全壊 112 戸、同半壊 232 戸、同流失浸水 292 戸、護岸決壊 2 力所、道路流失損壊 13 力所、橋梁同 4 力所。
昭和 30 年 7 月 3 日	(原因) 低気圧から本道西方に延びる前線通過による。 (降雨量) 日高 85mm (被災内容) 沙流川上流平取町二風谷地区・ヌタツ地区・去場地区・紫雲古津地区、下流門別平賀地区・富川地区・富浜地区氾濫、平取町被害死者 1 人、家屋半壊 5 戸、同流失 12 戸、同浸水 72 戸、氾濫面積 1,927.9ha。
昭和 36 年 7 月 26 日	(原因) 梅雨末期の前線の通過による。 (降雨量) 豊糠 274mm (24～26 日) (被災内容) 沙流川上流平取町紫雲古津地区・ヌタツ地区・二風谷地区・門別町富川地区・豊浜地区氾濫、平取町被害家屋全壊 1 戸、同半壊 5 戸、同流失 20 戸、床上浸水 63 戸、床下同 224 戸、氾濫面積 221ha。
昭和 37 年 8 月 4 日	(原因) 台風 9 号の接近通過による。 (降雨量) 平取 108.3mm (被災内容) 沙流川上流平取町紫雲古津地区・ヌタツ地区・オユンベ地区、下流門別町富川左岸地区・同右岸地区氾濫、平取築堤溢水、二風谷築堤決壊、平取町被害死者 1 人、負傷者 2 人、家屋全壊 1 戸、同半壊 1 戸、同流失 4 戸、床上浸水 60 戸、床下同 99 戸、氾濫面積 590ha、門別町被害床上浸水 58 戸、床下同 87 戸、氾濫面積 270ha。
昭和 50 年 8 月 24 日	(原因) 台風 6 号と寒冷前線の活発化による。 (降雨量) 振内 140mm (19～24 日) (被災内容) 沙流川上流平取町紫雲古津地区・荷葉去場地区・平取地区、下流門別町河口左岸地区・富川地区内水氾濫、平取町被害家屋全壊 1 戸、同半壊 1 戸、床上浸水 5 戸、氾濫面積 30ha。門別町被害死者 1 人、床上浸水 2 戸、床下同 53 戸、氾濫面積 38ha。
昭和 56 年 8 月 24 日	(原因) 前線および台風 12 号の影響による。 (降雨量) 平取 290mm、富川 350mm (被災内容) 平取町紫雲古津内水氾濫、門別町富川地区・河口左岸地区・河口右岸地区の各所で氾濫、死者 1 人、負傷者 5 人、家屋浸水 698 戸、同全壊 27 戸、同半壊 13 戸、一部破損 19 戸。
平成 4 年 8 月 9 日	(原因) 台風 10 号から変わった温帯低気圧による。 (降雨量) 日高 176mm、平取 205mm、門別 200mm (被災内容) 富浜樋門付近および右岸 KP 0/3 で内水氾濫、家屋半壊 1 戸、一部破損 2 戸、床上浸水 50 戸、床下浸水 83 戸。

## 5-2 近年の水害実態

### (1)昭和 36 年 7 月 26 日洪水

満州の低気圧を伴った不連続線による雨は夜半すぎ本道の西海上に小さな低気圧が発生し、とみに湿った暖気をさそって雨量も多くなり、沙流川水系上流部の豊糠では 24 日から 3 日間の総雨量が 273 mm に達した。このため、平取町の紫雲古津地区、ヌタツプ地区、二風谷地区、門別町富川地区、富浜地区の各所で氾濫し、平取町の被害は家屋全壊 1 戸、半壊 5 戸、流失 20 戸、床上浸水 63 戸、床下浸水 224 戸で、氾濫面積は 221ha であった。また、門別町では床上浸水 2 戸、床下浸水 26 戸の被害が生じた。

### (2)昭和 37 年 8 月 4 日洪水

台風 9 号の接近にともない本道は 2 日夕方から全道的に大雨となる。その後、台風 9 号は日本海を縦断し、4 日夜半すぎに北海道へ上陸、各地の大雨による被害はさらに広がった。この台風 9 号により、沙流川水系平取の雨量は 108.3 mm に達し、沙流川上流の平取町紫雲古津地区、ヌタツプ地区、オコンベ地区、下流の門別町富川左岸地区、富川右岸地区の各所で氾濫した。被害は平取築堤が溢水、二風谷築堤が決壊するに及び、平取町では死者 1 名、負傷者 2 名、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、流失 4 戸、床上浸水 60 戸、床下浸水 99 戸、氾濫面積 590ha となった。さらに門別町では家屋床上浸水 58 戸、床下浸水 87 戸、氾濫面積 270ha に及んだ。

### (3)昭和 50 年 8 月 24 日洪水

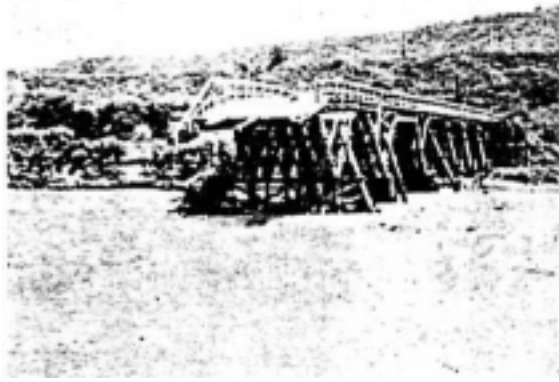
日本海を北上した台風 6 号と寒冷前線の影響で、23 日から 24 日の早朝にかけ日高地方に大雨が降り、沙流川水系の振内では、8 月 19 日から 20 日にかけて台風 5 号と同月の 22 日から 24 日にかけての台風 6 号による影響で 19 日から 24 日の雨量は 140 mm になった。このため沙流川上流の平取町紫雲古津地区、荷菜去場地区、平取地区、下流部の門別町河口左岸地区、富川地区の各所で内水氾濫があった。被害は平取町が家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、床下浸水 5 戸、氾濫面積 30ha で、門別町では死者 1 名、床上浸水 2 戸、床下浸水 53 戸、氾濫面積 38ha であった。

### (4)昭和 56 年 8 月 5 日洪水

オホーツク海より渡島半島を越えて日本海に達した前線および台風 12 号の影響により、3 日夜半から降り出した強い雨のため、浦賀測候所では 8 月 5 日 2 時 35 分、大雨洪水警報、雷雨強風波浪濃霧注意報を発表した。強い雨はその後降り続き、5 日夜半までに日高 179 mm、平取 290 mm、富川 350 mm に達し、沙流川水系平取観測所では警戒水位を 15 cm 超えて 24.25m に達した。このため沙流川水系の平取で紫雲古津地区の内水氾濫、門別町では富川地区、河口左岸地区、河口右岸地区の各所で氾濫した。被害は平取町で床上浸水 3 戸、床下浸水 31 戸、門別町では死者 1 名、負傷者 5 名、家屋の全壊 27 戸、半壊 13 戸、一部破損 19 戸、床上浸水 173 戸、床下浸水 491 戸に達した。

(5) 平成4年8月9日洪水

九州地方を縦断し日本海を北上してきた中型で並みの強さの台風10号は、秋田市の西北西約100kmの位置で温帯低気圧に変わり東北地方北部から本道南岸を通過した。これにより8日夕方より降り出した強い雨のため、室蘭地方気象台は、8月9日11時に胆振東部に大雨洪水警報を発令した。また、浦河測候所は、8月9日13時に日高全域に大雨洪水警報を発令した。その後、強い雨が継続的に9日夜半まで降り続き、降り始めからの総雨量は、富川214mm、平取205mmに達した。このため、沙流川水系平取観測所では警戒水位を2.80m越えた26.90mに達した。これによって、平取町では、床上浸水9戸、床下浸水40戸、門別町では、家屋半壊1戸、一部破損2戸、床上浸水41戸、床下浸水43戸などの被害が生じた。



流出した振内橋・広報びらとり  
(昭和36年7月)



必死の護岸作業を行う自衛隊員・広報びらとり  
(昭和36年7月)



台風9号による国鉄富内線の鉄道崩落現場  
・昭和37年8月(日高町史)



沙流川氾濫による灌漑溝決壊  
・昭和37年8月(平取町史)



沙流川左岸・門別町富浜地区洪水（昭和 50 年 8 月）



沙流川右岸 C 樋門内水氾濫・門別町富川地区（昭和 56 年 8 月）



沙流川右支川長知内沢川の増水により道路決壊・平取町（昭和 56 年 8 月）



沙流川左岸富浜樋門付近一帯内水氾濫・門別町（昭和 56 年 8 月）



KP 0/3 右岸内水氾濫状況（平成 4 年 8 月）





富浜樋門付近内水氾濫状況（平成4年8月）



洪水時沙流川河口（平成4年8月）



沙流川河口（平成3年9月）

### 5-3 治水事業の沿革

沙流川の治水事業は昭和9年の旧河川法の改正により準用河川中、拓殖費支弁の河川に認定されたが、部分的な護岸などの小規模な低水路工事が行われたにとどまり、戦後の国費応急河川改修による直轄河川改修工事に引き継がれた。

昭和23年に国費応急河川改修費で事業に着手し、昭和26年から改修全体計画の基本調査を実施し、河川工事の基本となる計画高水流量を、平取基準点で $3,900\text{m}^3/\text{s}$ とした。

その後、昭和38年の改修総体計画、昭和44年の工事実施基本計画を基に一級河川に指定され河川改修がすすめられてきたが、その間、昭和37年8月、昭和41年7月、8月、昭和48年8月、昭和50年8月と洪水に見舞われ、沿岸では平取町、門別町の発展に伴い氾濫区域内の人口および資産の増大が進み、洪水被害は増加の傾向にあり、地元住民は抜本的な洪水対策を強く望んでいた。そのため昭和53年3月23日、沙流川水系工事実施基本計画の改定がなされ、流域の社会経済などの重要性から、年超過確率 $1/100$ を安全度とし、基準点平取の基本高水流量を $5,400\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量を $3,900\text{m}^3/\text{s}$ とし、その差 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ を二風谷ダム、平取ダムなどのダム群で調節することにした。

その後、昭和56年8年、平成4年8月にも洪水が発生し下流部の富川市街地を含め、中上流部が冠水するなど甚大な被害を受けているものの、工事実施基本計画にしたがい河川改修事業を進めており、主要な工事としては、平成2年に河口導流堤、平成9年に二風谷ダムの完成等があげられる。